

## 子守歌一考察

小岩井 きし子  
kishiko KOIWAI

### 第1章 はじめに

2002年12月16日付け朝日新聞の五木寛之氏のみみずくの夜メールという連載<sup>注1)</sup>に、「青菜切るよにざくざくと」という話が載った。その中に子守歌の話が出てくる。子守歌を主題にした番組を作りたいとテレビ関係者から相談を受けたが、その人は子守歌をかなりロマンチックに考えている様子。「子守歌は愛がモチーフ」などと言ったが、実際にはそんなまやさしい世界ではない。民衆詩研究の第一人者の松永伍一氏から歌ってもらった子守歌は凄い歌詞だった。五木の子守歌も残酷な文句があったはずだと。

偶然、翌日12月17日付け朝日新聞の惜別欄のところに平井康三郎氏が載っていた。「とんぼのめがね」などの作曲者であるが、肺炎で入退院を繰り返していたが、亡くなるその日、病室にはとりわけお気に入りだった自作「ゆりかご」のCDが流れていて、ふいに目をあけ、ほほ笑んだような表情のまま目からスーッと涙を流しそのまま、昼寝でもするかのように穏やかに逝ったという。

私は昔から歌い継がれてきた「坊やは良い子だ」は優しい子守歌だと思う。そして、昔から歌い継がれてきたという点で子守歌もわらべ歌の一種だと思う。昭和60年頃、私は、子どもの遊び100と題して、わらべ歌遊びなどを集めた本を編集し、授業でもたくさんのわらべ歌遊びを行った。しかし、最近は、授業時間の変更もあって、その当時よりその扱いは少なくなった。子守歌も歌う機会もなくなって、北原白秋作詞の有名な曲「ゆりかごの歌」と団伊久磨氏の物語風の「子守歌」などはすぐに歌えるが、平井康三郎氏の「ゆりかご」ってどんな歌かと新聞記事を見て思った。調べてみると大学時代に歌った歌で、ゆったりとしていて素敵な歌で懐かしかった。新学習指導要領に基づいて平成14年に新しい音楽教科書になり、そこから、多くの唱歌・童謡などなくなり<sup>注2)</sup>今時の歌が採用された。しかし一方で、唱歌・童謡が静かなブームをよんでいると思う<sup>注3)</sup>。音楽教育の歴史は1879年(明治12年)文部省に設置された音楽取調係りににおいて、小学唱歌がつくられた。そこでは、わらべ歌は卑俗なものだから文明開化の新しい時代にはふさわしくないと抹殺された。大正時代には童謡運動が起こるなどの経緯があったが、昭和47年文部省が新教科書を編纂した。それには、明治・大正以来の学校唱歌の中から優れたものを生かし、伝承歌謡としてのわらべ歌の中からも優れたものを選び、又、とかく「品位を欠く」と言う理由で軽視されがちだった大正期の童謡も採用し、さらに、現代の詩人、作曲家による作品をも収録された<sup>注4)</sup>。このような音楽教育の歴史の中で、多くの子守歌も生まれた。子守歌というと、子どもを寝かすとき歌うものでなにかロマンチックな感じと思う人も多いかもしれないが、五木寛之氏の言うように昔から歌い継がれてきた子守歌には、凄い歌詞、残酷な歌詞が多いように思う。そ

こで昔から歌い継がれてきた子守歌にはどんなものがあるのか調べる。又、学生はどの位子守歌を知っているかも調べ、子守歌について考えたい。

## 第2章 目的・方法・結果

### 第1節 目的

- 1、日本全国にあるわらべ歌の中の子守歌の数、種類、特徴
- 2、子守歌に関する学生の関心

### 第2節 方法

- 1、「日本わらべ歌全集」1巻～26巻<sup>注5)</sup> から、子守歌を調べる。これは、全国各地のわらべ歌研究家約50余名の協力を結集して、主として明治期から昭和前期までの伝承わらべうたについて採集・採譜、北海道から沖縄まで、都道府県別に歌詞・曲譜を克明に記録し、できるかぎり民族伝承や遊び方などを解説したもの。その中で、浅野健二氏は、「全歌曲の歌詞や音楽的特性はもとより、時代差または地方差による変化に至るまで、細大もらさず網羅・分析・研究した成果の集大成で、現時点におけるわらべ歌研究の文献として、最大規模のものといっても過言ではない」と言っている<sup>注5)</sup>ものである。
- 2、松本短期大学幼児教育学科の1年生にアンケート調査を行う。

### 第3節 結果

- 1、日本全国のわらべ歌の中の子守歌の数、種類、特徴

#### (1) 子守歌の分類

一般的にわらべ歌の中の子守歌は下記の3つに分類されているので、3つに分け、県別にその数、特徴を簡単にまとめる。

- ①遊ばせ歌……幼児や赤子を遊ばせるもの
- ②ねさせ歌……赤子を眠りに誘うもの
- ③守り子歌……ねさせ歌でもあるがむしろ守り子が自らのつらい心情を歌に託して慰めようとするもの、労働歌と規定している場合もある。

県 名	子守唄数	遊ばせ歌数・特徴	ねさせ歌数・特徴	守り子数・特徴
鹿児島	27		27. 手まり歌、メソメソしたところなく口説物・叙情詩が多い、言葉遊びが子守歌になっている、しりとり歌、 $\frac{3}{4}$ , $\frac{5}{4}$ 拍子	
沖 縄	42		40. 即興性あり、こぶし掛け合い、 $\frac{3}{4}$ , $\frac{2}{2}$ , $\frac{3}{2}$ 拍子、脅し子守歌、シンコペーション、沖縄独特のやわらかい響き魅惑的美しい音色、昼(親の働き)と夜(月や夜の情景)の子守歌	
その他 眠らせ比べ2. 子守り同士勝負				

熊 本	53	8. ちょちちょち 子どもを揺らす、足遊び	29. 脅し文句、手まり歌、説話、うさぎの耳、子守唄からお座敷歌に変化したもの、 $\frac{5}{4}$ , $\frac{3}{4}$ 拍子	16. 俗謡からの借用、五木の子守歌、親が難儀・売られる、 $\frac{3}{4}$ , $\frac{6}{8}$ , $\frac{2}{2}$ 拍子ある
宮 崎	29		20. 中国地方の子守歌、江戸子守歌	9. 五木の子守歌 $\frac{3}{4}$ 拍子ある
佐 賀	16		13. 花嫁歌う、お嫁入り歌う、テンポ速いのを遊ばせ歌・遅いのをねさせ歌	2. 食べられない辛さ歌う、あやす時
		その他 あやし 1. 歩き始めの頃歌う		
長 崎	22	3. 両手を高く上げあやす、2人で子を揺らし落とす、上下に揺らす、手まり歌	15. 手まり歌、花折、酒屋、	4. 五木の子守歌 奉公の辛さ
福 岡	22	8. あやし、ゼスチャー、鼻・ほっぺ・口・くすぐる、揺する、2人で手をつないで揺らし落とす、ちょちちょち	7. 花折り、手まり歌、酒屋	7. 五木の子守歌、博多の子守歌、わが身の不遇
大 分	23	3. 歌に合わせて動作、ひらいたひらいた、歌に合わせて両手を交互	12. 江戸子守歌、うさぎ、昔話、旅人を殺す話を子守歌の中に入れ気づかせる	8. 奉公の辛さ、歌けんか
徳 島	24	1. あやし歌	23. 江戸子守歌、花折り、天満の市、京都+江戸、 $\frac{3}{4}$ 拍子	守り子と区別できずに寝させとした
高 知	11		7. うさぎの耳、江戸子守歌、つくつく法師、手まり歌、お手玉歌、盆踊りとしても	4. 子守りの辛さ $\frac{3}{4}$ 拍子
愛 媛	11	3. 両手交互に引く、顔つつく、ちょちちょち	4. 子守り奉公による寝させ歌、酒屋、 $\frac{6}{8}$ 拍子	4. 辛い心情
香 川	13	1. おつむてんてん	10. お寺参り、 $\frac{6}{8}$ 拍子、江戸子守歌、兎の子、脅し	2. 守り子の仕事しっかりやれ、 $\frac{6}{8}$ 拍子
鳥 取	11	3. 手まり歌、昔話	4. 江戸子守歌、詞も穏やかで静かで優しい旋律	4. 子守りの辛さ、恋の歌
島 根	12	4. 花折、手まり歌、ねさせ歌のようなもの	7. 江戸子守歌、ことばあそびのような歌詞	1. 歌詞から守り子で哀愁に満ちた旋律
山 口	23	6. 指を閉じたり開いたり、両手を揺らす、舵を取り最後沈める、ちょちちょち、あやし	16. 5音旋律、蟹のあやし歌、花折り、手まり歌、説教歌 $\frac{6}{8}$ 拍子	1. 自分を慰め他へ行くよりここが良いと歌う
兵 庫	41	9. あやし歌、歌の最後に落とす、あんよは上手、子守り同士歌に合わせそれぞれの子を近づけたり離したりする	19. 天満の市、江戸子守歌、優しい感じのもの、母働き手祖母子守り歌	13. 自分自身を慰める、詞はつらさがあるが曲調は軽快、大勢子守りに出た
広 島	20	2. 月を見て歌う	18. 守り子はどこ、江戸子守歌、中国地方の子守歌	
大 阪	48	11. ニギニギ、ちょちちょちあばば、くすぐりあそび、2人で揺すり落とし受ける、 $\frac{6}{8}$ 拍子	7. 天満の市いろいろな旋律ある、 $\frac{2}{2}$ , $\frac{1}{2}$ , $\frac{1}{4}$ , $\frac{6}{8}$ 拍子	8. 守り子が退屈しのぎに歌う、男子の守り子いる、ヨイヨイコイコイ、集団化した守子

和歌山	44	2. ちょっちょっちょの、左右に揺すり下へ	28. 僧を殺そうとしているのを子守歌に託して知らせる、伝説、秀吉の攻めに対して助けを乞う、酒屋の子、江戸子守歌、中国地方の子守歌	15. 寝た子は太る、起きてなく子は虫が出る、守りが憎い、破れ傘
奈良	12	3. あやし歌、揺らして歌う、親子で歌う	4. 暖かいぬくもりのある歌、中国地方の子守歌	5. 音域5度(ソ〜レ)素朴で明るい、子守り奉公の辛さ
京都	43	7. 赤ちゃん同士のバー、ちょちょち、くすぐり、両手を臼の様に回す、シーソー	30. 本願寺八世蓮如上人の作とみられるもの、天満の市、茶摘風、美山の子守歌(朝鮮民謡を思わす哀調)脅し風、姑から嫁へのあてつけ歌、江戸子守歌 $\frac{3}{4}$ (9つある) $\frac{2}{2}$ 拍子	4. 守り子とその心情を訴えている度合いの強いもの、竹田の子守歌
その他 織り手ふし2. (子守歌が機織り歌、機織り歌が子守歌)				
岡山	19	3. 揺すり落とす、ちょちちょちあわわ、臼を引く様に	11. うさぎの耳、江戸子守歌、中国地方の子守歌、あそび歌	1. 辛さ歌う
滋賀	22	4. 両手を包み前後に揺らし寝さす、高い高い、2人の手の上に子を乗せ揺すり落とす、お話歌	9. 竹馬のよいち、どうしたら寝てくれるかと歌う、 $\frac{1}{4}$ , $\frac{9}{8}$ , $\frac{2}{2}$ , $\frac{3}{8}$ , $\frac{6}{8}$ , $\frac{3}{4}$ 拍子、江戸子守歌	8. 守り子が自分本位に歌った歌、愚痴、・反抗心・子守りとは関係ない成人民謡・流行句を歌いこむ
三重	25	2. かいぐりかいぐり	17. リズムによって眠りに誘う、花折り、目ざめ歌	6. 守り子のつらい心情
愛知	21	4. かいぐりかいぐり、両手等もって左右に揺らす、足の前に乗せ歌う	11. 花折り、江戸子守歌、天満の市	5. 子守りの辛さ、
静岡	12	1. かいぐりかいぐり	7. 情愛のこもった子守歌、猫、ねずみ、脅し型	4. つらさ歌う
山梨	11		11・江戸子守歌、猫、月をみせながら歌う	
石川	22	5. 3・4歳の子をあやす、泣いている子をあやす、寒い日に肌を温め子守りする、くすぐり遊び、揺り遊び	11. 里の土産型、僧を殺す相談の話から、僧を助けようとの子守歌、 $\frac{3}{4}$ 拍子	6. 辛い子守りを忘れようとの歌、 $\frac{3}{4}$ 拍子
福井	7		7. 子が寝ている間にご馳走を作り起きたら食べさそうと優しい詞で心地よい旋律、江戸子守歌、花折り、起きて泣くこの面憎さはあるがあとはみな優しい詞、 $\frac{3}{4}$ 拍子	
富山	12	1. たんたんたぬきの(子を遊ばせるときゼスチャーを入れ歌う	11. 嚇し型、長音階と陽音階をミックスしたようなユニークな旋法、陰音階で情緒表現の味わい深い、江戸子守歌、短音階と長音階がミックスし	

			て面白い、嚇し型、ユーモラスでリズム感のあるもの	
新 潟	10	2. ののさんいくつ、お月様いくつ（歌って聞かせたり、一緒に歌う）	6. 元来大人の歌が子守歌に転化したものがあり言い聞かせ歌とも言える	2. 数え歌（子守が上手にできれば一人前と言われた）
埼 玉	10	6. 上がり目下がり目、とつとの目、おつむてんてん、あんよは上手、ここまでおいで	3. 江戸子守歌、猫、月、	1. 守り子辛い
神奈川	10		10. 子守り奉公にだされることがなく、守り子の苦しさなど歌った歌はほとんどなく、自分の兄弟を寝かしつけるとき、自分の心情を即興で歌うことが多い。子を寝かしつける内容というより、若い娘の心情が多く歌われている、 $\frac{3}{4}$ 拍子	
東 京	17	10. 歩き始めの子へ、ちょちょち、おつむてんてん、舟のように揺する、子を横にして背負う遊び歌、子を後ろ向きして遊び歌	6. 子を背負って揺らす、江戸子守歌（平安時代の今様に似た八五または七五調連続形式、陰旋法都節音階）ユーモアゆかいな子守歌、ねんねんねこのけつ、陰旋法から陽旋法（民謡音階）へ、 $\frac{2}{2}$ 拍子	1. 江戸系旋律による特徴的守り子歌
長 野	9	1. ねんねんねこのけつ	6. 詞も美しく愛情に富んだ子守歌、美しい旋律の繰り返して自然と眠りに誘い込むような子守歌、物語風の遊び歌	2. 奉公のつらさ・自分の嘆きや親里をしたう気持ちを歌う
岐 阜	9	1. ちょちちょち	4. 江戸子守歌、天満の市	4. $\frac{3}{4}$ , $\frac{6}{8}$ 拍子、混合拍子、辛さ切々と歌う
千 葉	13	5. 子を抱いて揺らしおでこをつける、子の両手を取って前後に揺らしあそばせる、歩き始めの子に歌う	6. 江戸子守歌（場所によって陽旋法、陰旋法ある）、 $\frac{2}{2}$ 拍子	2. 守り子の辛さ
茨 城	12		8. 子を背負って寝かしつける時即興的に自分で歌詞を作り歌うのでたくさんあるが洗練され良いのが残る、滑稽なもの、面白いもの、期待を抱かせ眠りに誘う、脅すもの	4. 守り子の辛さ歌う（子守歌は労働歌、外国の子守歌とは大分趣を異にする）
栃 木	10		7. 江戸子守歌、嚇し歌、初めは一種のゴロ合わせが後は嫁へのあてつけ歌、ユーモアに富んだもの	3. 雇い主に対するレジスタンスを歌や動作につけ、自らを慰める内容
群 馬	10	4. かいぐりなど動作つけたもの、のんのさんいくつ（中秋の名月を見て歌ったものが、	5. おばあさんの即興子守歌でめずらしい、蟹が入った数え歌、江戸子守歌	1. 桂庵という子守幹旋業あり、辛さ悲しさの心情歌う

		その叙事形式が好まれ、次第に子守歌、手まり歌などに転用された)		
福島	23	1. 子守歌としてでなく、月を眺めながら歌ったり、手まり歌としてしているところもある	13. 江戸子守歌 (美しい旋律、素朴で格別なもの)、おいしいもの上げるから寝なさい寝ないと怖いものにさらわれる	9. 守り子が子を背負い軒下や社寺の境内を終日さまよいながら歌う子守り口説、泣く子に困り雇い主への恨みつらみ歌ったもの、数え歌、一部陰旋律化した独特の美しさ、江戸子守歌の影響大きい
宮城	12	1. 民話の中の歌 (旅の僧侶を殺す相談をしている話を聞き子守歌になぞかけとして歌い僧をにがした)	10. 脅し歌、寝たら起きてから良いものをあげる、こけしのうた	1. 数え歌で子守り自身のつらさ悲しさ歌う
秋田	14	4. 囲炉裏にあたって子の手を温める、聞かせ歌で祖父母を歌う	8. 昔話のついたもの、えずめに子をねかす、孫に歌ったもの、口減らしのため子を買ったり娘は子守り奉公に、まびきもある	2. 子守娘の辛さを数え歌に
山形	16		15. 小学校には兄弟をおんぶして登校、12・3歳で子守り奉公(男子も同様)ねずみ、狐などにさらわれる、のどかな旋律でお手玉歌・手まり歌共通のもの、長者の婿選びに関係した歌	1. 数え歌で子守りくどき歌
青森	19	5. 両手を握り揺する、2人組で子を揺らす、歩きを促すもの	14. 江戸子守歌(ラとソとミ、方言で)、嚇し型、 $\frac{2}{2}$ , $\frac{3}{4}$ 拍子	
岩手	23	3. 数え歌(揺すってあやす)、冷たい子の手を温める、祭りの山車の囃子歌が子どものあやし歌に	17. 寝ないと犬にほえられるくらいで嚇し文句はない、桃太郎など物語風の子守歌多い、 $\frac{2}{2}$ 拍子	3. 子守りは大変
北海道	7	3. あんよは上手、ここまでおいで、おつむてんてん	4. 江戸子守歌の流れあり(美しい旋律、快いリズム)、「赤い山、青い山」愛知・石川・福井などに似た子守歌あり、移住し愛唱した? 北原白秋「赤い鳥小鳥」の原歌?	3. 子守りは大変
アイヌ	7	7. 子守歌をイフムケ(音を出して子どもをあやすという意味)という。意味のない音声群の繰り返し、揺すって歌う、熊、 $\frac{6}{8}$ 拍子		

## 2、学生 調査結果

松本短期大学幼児教育学科1年生に子守歌についてアンケートを行った。

### 1) 調査目的

- ①どの位子守歌を知っているか
- ②どこで子守歌を知ったか
- ③子守歌をどう思うか

### 2) 調査方法

H15年12月19日、身体表現の授業の時に、質問用紙を用意して学生自身、該当するところに丸印をつけ、子守歌についての考えはそれぞれ自由に記入してもらった。(複数回答可)

### 3) 調査結果

#### ①知っている子守歌

7曲、出だしのメロディーを質問紙にのせ、私がそれぞれを歌い、丸印を付けてもらう。

順位	曲 名	%
1	坊やは良い子だ(わらべ歌)	95%
2	シューベルトの子守歌(シューベルト作曲)	86%
3	ゆりかごの歌(北原白秋詞・草川信作曲)	74%
4	ブラームスの子守歌(ブラームス作曲)	48%
5	モーツァルトの子守歌(ベルハント・フリース作曲)	11%
6	ゆりかご(平井康三郎作曲)	5%
7	子守歌(団伊久磨作曲)	2%

#### ②その子守歌はどこで知ったか

順位	曲 名	%
1	家族	71%
2	学校	38%
3	CD、レコード、テレビ等	37%
4	その他(メリーゴーランド、いつの間にか、おもちゃ、保育園の先生)	20%

#### ③子守歌についてどう思うか？

- ・子守歌はきちんと教えてもらう事がないからきちんとみんな聞いてみたい。
- ・癒し、安らぎ、落ち着きを感じる。
- ・赤ちゃんだけでなく、聞いている人の心を安らかにしてくれる癒しの曲だと思った。
- ・小さい時に聞いていてそれっきりだったけれど、今聞くと思い出したり、一緒に歌うこともできるし、良いなと思う。
- ・子守歌はとても気持ちが落ち着き、眠りやすくなると思う。私も小さい時そうだった。赤ちゃんにとって大事なものだと思う。
- ・凄く安らぐので子どもに聴かせるのにはもってこいだと思う。
- ・安心して眠れる。子どもが落ち着く。受け継がれていく。
- ・母の子守歌は地元に伝わるような民謡だった。お母さんが歌ってくれる心地よい曲がその子にとって子守歌だと思う。
- ・高い声で歌うので男は歌いづらいと思った。低い音の歌はあるか？
- ・寝る前に聴くと赤ちゃんが眠ってしまう曲。
- ・母と子の間で自然と絆ができる一つのきっかけの歌だと思う。
- ・子守歌はほとんど知らないけれど、「坊やは良い子だ」は小さい時から知っていて、シューベルトやブラームスの子守歌は最近聞いた。
- ・優しい感じがする。落ち着く。

- ・親から子、子から孫へと受け継がれる伝統の大切な歌だと思う。
- ・とても安らげる歌だと思う。
- ・子どもが寝るときに歌うイメージがある。子守歌はほぼ全部がゆっくりとした曲。
- ・癒される曲だと思う。子守歌だけあってお母さんという感じがした。
- ・なにか、優しい感じのやわらかい気持ちになる。小さい頃に聞いたので、懐かしい感じがした。
- ・子守歌は歌う人の歌い方により、優しく、ゆっくりと眠くなるように歌えばどんな曲も子守歌になると思った。
- ・ゆったりとしていて優しい気持ちになれるので良いと思う。
- ・寝るときだけに歌ってくれる特別な歌。懐かしくて心地良い。
- ・子守歌って本当に子どもたちなんかを寝かすときに効果があるのか？
- ・安心するような安らぎのある曲で聴いていてとてもよいなと思う。
- ・あまり眠くならない歌だと思う。気味が悪い。
- ・子守歌は特に誰かに教えてもらうものではなくて、気がついたら知っていたというものだった。
- ・安らかに眠れそうな感じがする。気がついたら知っている。
- ・子守歌メロディーがゆったりとしていてとても心地良い歌。
- ・懐かしい感じがするし、今でも聞くと癒される。
- ・優しいメロディーだから聴いていてもすごく聞きやすい。母に歌ってもらったから凄く懐かしいと思った。
- ・あまり知らないし、懐かしいとも感じないが、どこかで聞いたなくらいに思う。
- ・お母さんが歌ってくれれば安心して眠ったりできて良いと思う。
- ・お昼寝の時先生や親が歌ってくれた気もする。最近は歌わないけれど、実習でお昼寝があったらやってみるのも良いと思う。
- ・眠くならないような歌もある気がする。歌ってもらった記憶がない。
- ・母子のコミュニケーションにかかせない。
- ・小さい頃よく母に歌ってもらって、日本の子守歌は凄く残っているから、楽しめるし、いい曲だと思う。
- ・わらべ歌の子守歌は悲しい感じがする。シューベルトの子守歌は一般的な感じがする。
- ・子守歌はお母さんが優しく歌っているイメージがある。暖かさを感じる。
- ・聞いていると気持ち良い気分になる。優しい感じがする。
- ・子守歌だけに、眠くなってくる。心が落ち着く感じ。
- ・優しい感じ。安心する。
- ・凄く優しい感じがして良いと思う。
- ・優しい感じで良いと思う。「坊やは良い子だ」はあんまり好きなメロディーではない。
- ・あまり子守歌を歌ったり、歌ってもらった覚えもないのであまり知らない。子守歌に親しみがなくて、子守歌は子どもにどんな影響などがあるのか知りたい。また、子守歌の代わりにわらべ歌みたいなのを歌ってあげても代わりになるか？
- ・子守歌を聞いているとなんか落ち着く。
- ・速い曲だと眠れないからゆっくりの曲が良い。
- ・母や祖父母がよく歌ったり、リズムを口ずさんでいた。懐かしくなる。
- ・あまり歌ってもらったことはないけれど聞いたことある感じ。だから懐かしい。
- ・曲は知っていたけれど子守歌であることを知らずに聞いていた。音程が聞きやすい音でできていると思う。裏声で歌ってもらって気持ちよく聞ける気がする。
- ・母が歌う子守歌はとても安心できた思い出がある。これは誰でも同じではないか？
- ・「坊やは良い子だ」は母がいつも歌っていたのでよく覚えている。(確かに小さい頃はこの歌は怖かった)子守歌でぐっすり安心して寝られたら素敵だと思う。
- ・子どもを寝かす時は口ずさんでしまう。優しい感じの歌が多いと思う。
- ・子守歌を聞いていると本当に眠くなってくる。いろいろな種類の子守歌があるのは知らなかった。
- ・優しい感じの歌で癒される。
- ・小さい時を思い出すし、懐かしい気がする。
- ・安らぐ曲。
- ・なにかゆったりとしていて心地良くて、眠れそう。
- ・子どもが眠れるようなゆったりとした曲のものが多く思う。「ゆりかごの歌」とか「坊やは良い子だ」は母や祖母に歌ってもらったのを覚えている。小さい頃、よく自分でも歌っていた。
- ・気持ちが安らぐ。
- ・子守歌は、幼い頃、夜眠れない時にいつも母が歌ってくれたのでとても懐かしい。
- ・赤ん坊でもない私も気持ちがよくなる歌なので良いと思う。モーツアルトの子守歌は日本の子守歌だと思っていたので違うと知って変な感じがする。
- ・「坊やは良い子だ」は特に祖母に歌ってもらっていたと思う。赤ちゃんの頃だけなんとなく記憶に残っている感じ。子守歌はいいものだと思う。

### 第3章 まとめ

昔から歌い継がれてきた子守歌の分類は遊ばせ歌、ねさせ歌、守り子歌の3つに分類されている。遊ばせ歌の中には、子どもを寝させるためだけではなく、泣いている子どもをあやしたり、スキンシップをはかるものが多く、特に未満児保育が多くなっている今、保育の現場でも使われているものもある。子守歌の中に入っている事に少し驚いた。日本わらべ歌全集には、手遊び歌も収集されている。ねさせ歌と手遊び歌の区別は、自分たちで遊べるかどうか、子どもの年齢に関係があると思う。この遊ばせ歌は大阪、埼玉、東京、千葉、群馬に多い。

ねさせ歌、守り子歌にはそれぞれの土地柄がでてくる。「日本音楽には3拍子がないのに、朝鮮・韓国の音楽は3拍子ばかりなのはなぜか」<sup>注6)</sup>とあるように、日本人は3拍子のリズムをとることが、苦手であると私は思っていた。しかし、子守歌に3拍子があって驚いた。特に京都のねさせ歌の $\frac{1}{3}$ は3拍子である。九州地方、四国、滋賀、石川、福井、青森にもある。小泉文夫氏は拍子の拍は原則として基準となる時間の単位であるから、同じ長さでなければならない(等拍)。実際の音楽では、多少の時間的長短のある「不等拍」もあり得る。日本音楽ではこの不等拍や拍の伸縮という現象が著しい<sup>注7)</sup>と述べている。私が参考にしたわらべ歌全集1～26は、それぞれの地方で歌っているわらべ歌を実際に歌ってもらい採集、採譜したもので、歌詞の関係からか曲の途中で拍子に変化しているものが多く興味深い。手まり歌などにも、3拍子がある。又、江戸子守歌が全国各地にあるのは、江戸時代の参勤交代のせいだという。北海道のアイヌに独特の子守歌がある。東北地方の中で一番子守歌の多い岩手県はアイヌの血が色濃く残っている<sup>注8)</sup>からと考えると納得できる。

そして、私が認識を新たにしたのは、守り子歌の存在である。赤坂憲雄著子守唄の誕生<sup>注9)</sup>に次のような事が書いてある。赤とんぼ(三木露風作詞、山田耕作作曲)にある、「…負われてみたのは…、十五で姉やは嫁にゆき、お里の便りもたえはてた」という歌詞、ネエヤに背負われ、そして、このネエヤは守り奉公であろう。そして、欧米にはこのネエヤがいなかったから、守り子歌は存在しないと述べている。この守り子の存在は日本の労働の歴史である。守り子歌は子守歌というよりも、守り子自身のことを歌ったものであり、その内容はつらさを歌ったもの、若者たちが守り子をからかって歌ったものなどもある。そこからは、現代では考えられない生活が見えてくる。ねさせ歌は美しい詞、音色の歌も多いが、守り子歌は歌詞も凄しい、曲も暗いものが多い。

長野県の子守歌で、私が知っているものは残念ながらひとつもない。今回、子守歌を調べていて、参考にしようと思った本複数が絶版になっていた。遊び歌はその歌で遊び思い出が残るが、子守歌はそれを聞く年齢が低いこともあってはっきりとは記憶に残らず、なかなか歌い継がれにくいものだと思う。その点で、日本の大切な無形文化財だと思う。

学生へのアンケートで、江戸子守歌の「坊やは良い子だ」を知っている学生が95%だったのはきっと知らないだろうと思っていたので少し驚いた。五木の子守歌、島原の子守歌は古関裕而氏の編曲、中国地方の子守歌は山田耕作氏の編曲で多くの人が愛唱するようになった。竹田の子守歌も昭和50年代フォーク歌手によって歌われ広く世に出た。これらは本来の子守歌とは違ったものになっているのかもしれないが、本来ある子守歌を歌う人がいない現状を考えるとせめてそれだけでも残って欲しいと思う。そのためにも、テレビなどメディアの役割が重要だ。子守歌に対して学生たちの多くは癒し、安らぎ、懐かしい、心地よい、優しい、などの思いを書いている。暗さのないシューベルトの子守歌、ブラームスの子守歌、モーツァルトの子守歌などは学

校で知る機会も多い。

子どもが寝るときに歌う歌（子守歌と限定せず、子どもの好きな歌など）が子守歌と書いた学生がいるが松本市で行われた子育て支援講座（子どもに伝えたいわらべ歌）で同様に回答した若いお母さんがいた（例えば「おつかいありさん」等の童謡を歌う）がそのようなお母さんは多い。そして、少なくともそこには親子の温かい関係が見える。保育の現場でも未満児のお昼寝の時に子守歌に限定せずに童謡を歌う事が多い。子守歌を歌わなくなってきたのは、今子育てをしている世代の核家族化、生活様式の変化（子ども部屋で子どもを一人で寝かす。又、眠らせるためにおんぶするという事は無くなってきている）にあると思う。

時代と共に歌も変わってくるが忙しい現代、今ゆったりとした音楽をこどもたちに聞かせたい。前出の「うたってよ子守唄」<sup>注10)</sup>で松永伍一氏は日本の高齢化社会では年老いた父母に育ててもらった感謝を込めて母守歌をうたう時代が来ているのではないかと述べているが、子守歌を調べ、改めて昔から歌い継がれてきた子守歌や北原白秋作詞のゆりかごの歌、平井康三郎作曲のゆりかごなど、子どもの心に残る様に、日本の子守歌も大切にしていかなければとその感をつよくした。

#### 「注」

- |               |                        |       |           |       |
|---------------|------------------------|-------|-----------|-------|
| 1) 五木 寛之著     | みみずくの夜メール              | 朝日新聞社 | P 150～    | 2003年 |
| 2) 横田憲一郎著     | 教科書から消えた唱歌・童謡          | 産経新聞社 |           | 2002年 |
| 3) 読売新聞文化部    | 唱歌・童謡ものがたり             | 岩波書店  |           | 1999年 |
| 4) 園部三郎、山住正巳著 | 日本の子どもの歌               | 岩波新書  |           | 1962年 |
| 5) 松本 達雄他著    | 日本のわらべ歌全集 1 北海道のわらべ歌   | 柳原書店  |           |       |
|               | P 108～114、164～173      |       | S 60年     |       |
| 工藤 健一他著       | 日本のわらべ歌全集 2 青森のわらべ歌    | 柳原書店  | P 200～216 | S 59年 |
| 千葉 瑞夫他著       | 日本のわらべ歌全集 2 下岩手のわらべ歌   | 柳原書店  | P 188～215 | S 60年 |
| 佐々木昭元他著       | 日本のわらべ歌全集 3 秋田山形のわらべ歌  | 柳原書店  |           |       |
|               | P 152～170、P 302～318    |       | S 56年     |       |
| 鈴木幸四郎他著       | 日本のわらべ歌全集 4 宮城のわらべ歌    | 柳原書店  | P 182～199 | S 61年 |
| 懸田 弘訓他著       | 日本のわらべ歌全集 4 下福島のわらべ歌   | 柳原書店  | P 181～211 | H 3 年 |
| 酒井 正保他著       | 日本のわらべ歌全集 5 群馬のわらべ歌    | 柳原書店  | P 186～198 | S 62年 |
| 小林 芳夫他著       | 日本のわらべ歌全集 5 上栃木のわらべ歌   | 柳原書店  | P 178～190 | H 2 年 |
| 今瀬 文也他著       | 日本のわらべ歌全集 6 上茨城のわらべ歌   | 柳原書店  | P 167～181 | H 3 年 |
| 尾原 昭夫他著       | 日本のわらべ歌全集 6 下千葉のわらべ歌   | 柳原書店  | P 209～222 | S 59年 |
| 尾原 昭夫他著       | 日本のわらべ歌全集 7 東京のわらべ歌    | 柳原書店  | P 308～324 | S 54年 |
| 小野寺節子他著       | 日本のわらべ歌全集 8 埼玉神奈川のわらべ歌 | 柳原書店  |           |       |
|               | P 167～172、P 326～336    |       | S 56年     |       |
| 峰村 辰典他著       | 日本のわらべ歌全集 9 新潟のわらべ歌    | 柳原書店  | P 199～208 | S 59年 |
| 黒坂 富治他著       | 日本のわらべ歌全集 9 上富山のわらべ歌   | 柳原書店  | P 196～206 | S 63年 |
| 小林 輝治他著       | 日本のわらべ歌全集 10 上石川のわらべ歌  | 柳原書店  | P 196～223 | S 61年 |
| 望月 敬明他著       | 日本のわらべ歌全集 10 下福井のわらべ歌  | 柳原書店  | P 196～202 | S 63年 |
| 堀場 宗泰他著       | 日本のわらべ歌全集 11 静岡山梨のわらべ歌 | 柳原書店  |           |       |
|               | P 198～208、P 378～388    |       | S 58年     |       |

- |            |                       |          |           |       |
|------------|-----------------------|----------|-----------|-------|
| 服部 勇次他著    | 日本のわらべ歌全集12愛知のわらべ歌    | 柳原書店     | P 254～276 | S 56年 |
| 町田 等他著     | 日本のわらべ歌全集13長野岐阜のわらべ歌  | 柳原書店     |           |       |
|            | P 176～186、P 353～361   |          |           | S 56年 |
| 服部 勇次他著    | 本のわらべ歌全集14上三重のわらべ歌    | 柳原書店     | P 186～207 | H 4 年 |
| 右田伊佐雄他著    | 日本のわらべ歌全集14下滋賀のわらべ歌   | 柳原書店     | P 186～207 | H 4 年 |
| 高橋美智子他著    | 日本のわらべ歌全集15京都のわらべ歌    | 柳原書店     | P 278～323 | S 54年 |
| 右田伊佐雄他著    | 日本のわらべ歌全集16大阪のわらべ歌    | 柳原書店     | P 308～342 | S 55年 |
| 牧野 英三他著    | 日本のわらべ歌全集17奈良のわらべ歌    | 柳原書店     | P 186～227 | S 58年 |
| 中西 包夫他著    | 日本のわらべ歌全集17下和歌山のわらべ歌  | 柳原書店     | P 186～223 | H 3 年 |
| 長谷坂栄治他著    | 日本のわらべ歌全集18兵庫のわらべ歌    | 柳原書店     | P 186～227 | S 62年 |
| 稲田 和子他著    | 日本のわらべ歌全集18下岡山のわらべ歌   | 柳原書店     | P 194～214 | S 60年 |
| 友久 武文他著    | 日本のわらべ歌全集19広島島のわらべ歌   | 柳原書店     | P 194～220 | S 59年 |
| 内田 伸他著     | 日本のわらべ歌全集19下山口のわらべ歌   | 柳原書店     | P 190～211 | H 4 年 |
| 酒井 董美他著    | 日本のわらべ歌全集20鳥取のわらべ歌    | 柳原書店     | P 196～208 | S 60年 |
| 酒井 董美他著    | 日本のわらべ歌全集20下島根のわらべ歌   | 柳原書店     | P 207～221 | S 59年 |
| 岩井 正浩他著    | 日本のわらべ歌全集21愛媛香川のわらべ歌  | 柳原書店     |           |       |
|            | P 187～198、P 325～337   |          |           | S 57年 |
| 園尾 正夫他著    | 日本のわらべ歌全集22徳島高知のわらべ歌  | 柳原書店     |           |       |
|            | P 136～158、P 294～303   |          |           | H 4 年 |
| 友野晃一郎他著    | 日本のわらべ歌全集23福岡のわらべ歌    | 柳原書店     | P 212～232 | H 4 年 |
| 加藤 正人他著    | 日本のわらべ歌全集23下大分のわらべ歌   | 柳原書店     | P 202～226 | S 62年 |
| 福岡 博他著     | 日本のわらべ歌全集24佐賀長崎のわらべ歌  | 柳原書店     |           |       |
|            | P 117～134、P 276～297   |          |           | S 57年 |
| 上村てる緒他著    | 日本のわらべ歌全集25熊本宮崎のわらべ歌  | 柳原書店     |           |       |
|            | P 171～236、P 403～431   |          |           | S 57年 |
| 久保けんお他著    | 日本のわらべ歌全集26鹿児島沖縄のわらべ歌 | 柳原書店     |           |       |
|            | P 164～194、P 351～392   |          |           | S 55年 |
| 6) 小泉 文夫著  | 音楽の根源にあるもの            | 平凡社      | P 69      | 1994年 |
| 7) 小泉 文夫著  | 日本の音                  | 平凡社      | P 328     | 1994年 |
| 8) 西館 好子著  | うたってよ子守唄              | アートヴィレッジ | P 116     | 2003年 |
| 9) 赤坂 憲雄著  | 子守唄の誕生 五木の子守唄をめぐる精神史  | 講談社現代新書  |           | 1994年 |
| 10) 西館 好子著 | うたってよ子守唄              | アートヴィレッジ | P 186     | 2003年 |